

# 久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 223号

平成22年7月29日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989 FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で..

久慈農業改良普及センター 公式

検索

## ○歴史ある県北ブロック生活研究グループ活動交換会○

6月30日、久慈・二戸地域の生活研究グループ員がともに集い「県北ブロック生活研究グループ活動交換会」を開催しました。農村が有する豊かな食文化を発信することと活動事例を交換し合うことで、各グループの活動の充実を図ることが目的です。

久慈・二戸交互の開催としてから今年で4年目となります。この活動交換会の歴史は古く、その名称や開催形式を変えながら現在に至り、今年で41回を迎えました。

今回は『農(脳)トレ』と題し農業を主としたクイズに挑戦する技術交換競技を数年ぶりに行い、参加者からは「楽しく参加でき昔を思い出した」と多くの感想が寄せられました。

また、元岩手県生活改善グループ連絡協議会会長の菊池清子氏より「グループ活動と私の農村ライフスタイル」と題した講演を賜り、「いくつになってもその時々で輝けるステージがある」ということを教えていただきました。

来年は久慈で二戸の皆さんをお迎えします。



久慈・二戸合わせて110名の参加となりました。

## ○第57回岩手県農村青年クラブ大会が開催されました○

～久慈地方の青年は今年も大活躍！～

県内の若手農家で組織する農村青年クラブ(4Hクラブ)のメンバーが一堂に会する「岩手県農村青年クラブ大会」が7月4、5日に花巻市で開催され、久慈地方からは6名のクラブ員が参加しました。

1日目はスポーツ交流会として、各地区のクラブ員混成チームでボウリングを行い、クラブ員同士の親睦を深めました。その後には情報交換会が開かれ、参加者が互いの経営状況や営農上の苦勞等について語り合っていました。

2日目は、クラブ員が普段使っている農具や農作業に取り入れているアイデア等を紹介するコンテスト、「クラ☆コレ2010」が行われました。コンテストは「マイコスチューム部門」「マイツール部門」「マイアイデア部門」「コマーシャルタイム」の4つの部門で行われ、5名の審査員による審査で各部門1組が優秀賞として表彰されました。

久慈地方からは以下の3組が出場し、審査の結果3組とも各部門の優秀賞を獲得しました。久慈地方の農業青年の連帯感や農業に対する熱い思いをができました。

※結果は次のページ

【マイコスチューム部門】

出場者：久慈地方農村青年クラブ連絡協議会参加者一同  
タイトル：「久慈地方4Hクラブオリジナルつなぎ」  
内容：クラブ員がアイデアを出しあってデザインしたオリジナルのつなぎ服を紹介。



久慈地方4Hクラブ  
オリジナルつなぎ

【マイアイデア部門】

出場者：柿木敏由貴さん（久慈市山形町）  
タイトル：「私の農業アイデア」  
内容：手作りのトラクターの照準、簡易な牛の削蹄道具、牛の角矯正器を紹介。

【コマーシャルタイム部門】

出場者：北村卓也さん（洋野町）  
タイトル：「我が家の従業員さん達」  
内容：ほうれんそう栽培のために雇用している従業員さんへの感謝の気持ちを発表。

## ○地域全体で出荷品質の再確認○

～ほうれんそう目揃え会が開催されました～

7月8日、JA 新いわて野田集荷場で、ほうれんそう目揃え会が開催され生産者85名の方が参加されました。今回の目揃え会には横浜丸中青果の担当者から、市場や消費者が「ほうれんそうを購入する際にどこを注意して見ているのか」ということとお話いただき、以下の3点に気を付けてもらいたいとの指摘がありました。



出荷のポイントを皆で再確認

- 1：ボリューム感（四角袋の下の両隅に隙間を作らない）。
- 2：葉先枯れ（新鮮さを見る点として袋包装は葉先、帯止めは横から見られる）。
- 3：トロケ（下葉の調整をきちんと行う）。

普段の作業で当たり前のこととして意識しなくなった部分かもしれませんが、自分がスーパーや産直でどこを見ているかを再確認し、お客様が一度手に持った品を棚やカゴに戻されないような“魅力ある商品”となっているか、改めて確認してみましょう。また、お互いに近所の調整室を覗いてみてはいかがでしょうか。

## ○ 技術情報 ○

### ハウスの塩類濃度障害は多量かん水ですっきり

【塩類濃度障害が増加傾向！！】

ビニルハウス内の土壌は、雨や雪にさらされないのので、肥料分がたまりやすい傾向にあります。肥料分が土壌に蓄積しすぎるとほうれんそうが発芽しなかつたり、生育が止まってしまうなどの生育障害が生じます。これは「塩類濃度障害」と呼ばれていて、以前からハウス栽培品目では良く知られている問題の一つです。

久慈地方で盛んな雨除けほうれんそうハウスにおいて、この塩類濃度障害の発生が拡大する傾向にあります。それは主に、次のような理由によると考えられます。

理由1：冬期も屋根ビニルをはがさず、寒締めほうれんそうなどを栽培するようになった。



理由2：たい肥の製造方法などが変化し、たい肥中の肥料成分が高まっている。

この他にも、必要以上に肥料を多量施用した場合には作物が吸収しきれずに残ってしまいますし、排水が悪いほ場にでも肥料分がたまりやすい傾向にあります。

【塩類濃度障害は多量かん水で改善できます】

塩類濃度障害を改善するためには、冬期間は屋根ビニルをはがして雨や雪にさらすのが最も効果的です。しかし、いろいろな事情で屋根ビニルをはがせなかったハウスでは、思い切った【多量灌水】で肥料分を流してしまう方法があります。多量かん水による除塩技術のポイントは次の2つです。

ポイント1：水を思い切って多量にかん水する。最低でも150mm。出来れば300mm以上かん水する。目安としてはほうれんそうの種まきをする時のかん水量の3倍から10倍。

ポイント2：ハウス外に水が逃げたり、土が流れたりするのを防ぐため畦立てをして水をたまりやすくする。畦を立てれば、かん水チューブでなく、ホースなどでもかん水ができる。

写真1では、かなり高い畦を作っていますが、水が外に流れ出さなければ良いので、5～10cm位の畦でも十分です。傾斜地でも、横に仕切りの畦を立てて、小さい棚田のような状態にすれば、土が流れ出すこともなく多量にかん水ができます。実際に多量灌水してみたところ、以前は塩類濃度障害で生育が止まっていたほ場にでも、のびのびとしたほうれんそうが収穫できました（写真2）。

多量かん水をした後の注意点としては、十分に水が抜けるのを待って耕起作業を行うこと、肥料は窒素単肥を基本とすることの二つです。水が多すぎる状態で耕起をすると土を練り返してしまい、発芽や活着に悪影響を及ぼします。また、塩類濃度障害が発生するようなハウスではリン酸やカリが不足することは殆どありませんから、尿素など窒素単肥での大丈夫です。

塩類濃度障害かどうかの判断は、農業改良普及センターですぐに調べることができますので、気になる方はJAや普及センターにご相談下さい。



写真1 畦立てをしてホースでかん水した事例



写真2 多量かん水による除塩で生育が改善